

## 若狭野古墳

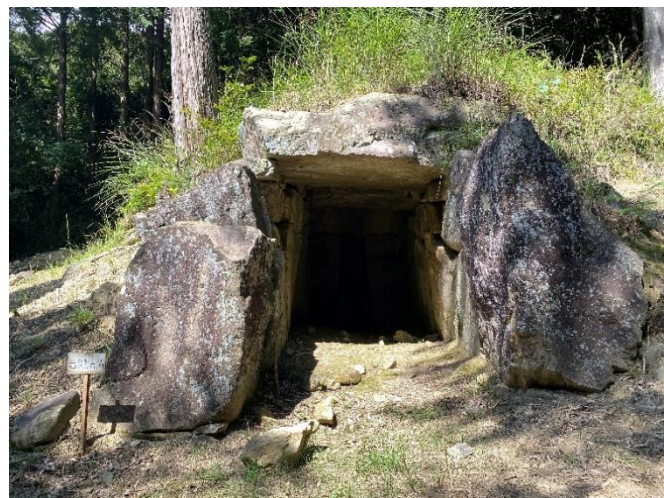
歴史巡検資料

場所：相生市若狭野町 国道2号線相生駅を西進、右手のコンビニであるファミリーマート相生若狭野店をすぐに右折、矢野川を渡って突き当りを右折、次の角を左折し北へ、民家の裏側に入口有り。



のどかな田園風景が続く、右手の宝台山ほうだいさんの麓ふもとに若狭野古墳があります

若狭野古墳は、宝台山より南にのびる丘陵の山麓に、単独で築かれた7世紀後半の方墳です。



民家の裏側を通過して、藪の中に忽然と現れる「若狭野古墳」

\*黄色破線は、外護列石が残っています。

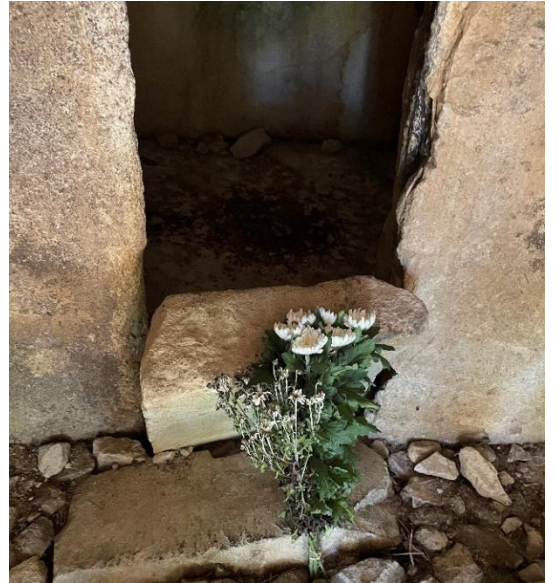
この古墳は、1辺約15m、高さ約3mの方墳で、墳丘は見かけ3段に造られ

ています。各辺には外護列石がめぐらされており、背後に周溝の跡も残っていました。

主体部は横穴式石室で、羨道(入口)、玄門(玄室の入口)、玄室(遺体を納める部屋)に分かれており、特に玄室は、奥壁、両側壁、天井、床石ともに1枚石で、あたかも組合式石棺の長辺に入口をつけたような、珍しい構造をしています。このような玄室空間が羨道空間より小さい横口式石槨は従来のものからは派生しがたいとし、その祖形は高句麗コウクリの土浦里1号墳トポリなどに求められます。



羨道の奥は、頭ギリギリの高さ！



玄室の中はとても狭い！

若狭野古墳の年代は、7世紀後半と推定され、高句麗の影響を受けたと言われる横口式石槨を採用し、古墳がほとんど造られなくなる時期に築造されていることに注目されています。ここの被葬者は一定の上位階層にある渡来系氏族で、特別な政治的役割(幹線道路交通拠点の掌握・管理?)を担った人物ではないかと考えられています。

参照：「相生市史 第1・5巻」編集：相生市史編纂<sup>へんさん</sup>専門委員会

「日本の古代遺跡3兵庫南部」著者：松下 勝、櫃本 誠一

「若狭野古墳 1980年8月調査」1982 相生市史編纂室

「令和2年度 特別展 那波野古墳・若狭野古墳と播磨の終末期古墳」

【展示解説】相生市立歴史民俗資料館